

骨髓バンク 2007年1月 会報34号

会報発行：骨髓バンクを支援するいばらきの会 <http://ibaraki.marowjp.net/>

発行責任者：牛島英二 編集：小田倉孝夫・福間究

<事務局> 〒305-0031 茨城県つくば市吾妻3-1-1-913福間方

TEL : 029-856-7881 / FAX : 020-4668-5485 / E-mail: bmt-ibaraki-owner@egroups.co.jp

新年のご挨拶

会長 牛島英二

会員の皆さん、新年おめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

昨年 of 骨髓バンクを振り返ってみましょう。

まず全国レベルでは、11月末現在の登録者数が268,015人で、この一年間に約4万人の増加となっており、一昨年に続いて新記録を更新し、順調なペースで増加しています。このペースで行けば、今年暮れから来年前半にも念願の目標30万人達成となる見込みです。また移植数も11月末で7,901例となり、こちらも着実に増加してきており、私たちの願いである患者さんの救命に大きく寄与していることは誠に喜ばしく、今後の活動の励みとなるものです。

次に茨城県では、11月末現在の登録者数が5,297人で、目標達成率は76.7%となり、全国順位は27位とほぼ昨年と同じ状況です。ドナー登録会は年間37回が開催され、約480名の登録者を得ましたが、各献血ルームでの登録者数も順調な伸びを示しており、骨髓バンクへの社会的な関心の高まりと共に、各ドナー登録会での献血者への県パンフレット配布効果も増加要因の一つと考えられます。

昨年 of いばらきの会では新しいメンバーとして、高畠さん、井手高子さん、田崎さんらが参加されました。当会モットーで、今後のご活躍を期待しております。

また、私事ですが昨年は2回も適合通知が来ましたが、いずれも提供までには至りませんでしたので今年9月のタイムリミットまで「気負って、あせって、まなじり決して」がんばる所存です。

今年もまた、県薬務課、各保健所、ならびに血液センターのご指導、ご協力により、一人でも多くの県民の皆さんにドナー登録していただけるよう、いばらきの会メンバー全員の力で「一人でも多く、一刻も早く患者さんの救命に寄与する」目標に向かって「気負わず、あせらず、できることから、楽しく」のモットーで活動して参りましょう。

ドナー登録者30万人をめざして！

謹 賀 新 年

財団法人 骨髄移植推進財団

理事長 正岡 徹

新年を迎えるにあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

さて、骨髄バンク事業は設立から16年目を迎えました。昨年の12月には骨髄移植例数がまもなく8000例に到達しようとしております。ドナー登録者数も27万人を超え、ドナー登録者数、移植数ともに飛躍的に伸びております。これもひとえに、全国各地のボランティアの皆様、日本赤十字社、医療、行政関係者の皆様のご尽力の賜物であり、心から感謝と敬意を表します。私どもは決意を新たに、患者さんの救命のために一人でも多くのドナー登録を推進し、ドナー登録30万人という目標が一日でも早く達成されますよう努力していきたいと存じます。また、より一層のコーディネート期間の短縮やドナー安全対策の強化、国際協力の推進などに努めてまいりますのでございます。

皆様の益々のご発展とご健康を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

10月～1月 茨城県内イベント登録会等報告

10月7日、8日 大好きいばらき県民祭り献血並行登録会

(10月7日は荒天のため中止となりました)

ドナー登録者 23名(受付24名)

献血者数 67名(受付86名)

登録会参加者

ひたちなか保健所 渡辺様、上松様

登録推進員 得田さん(日立献血ルーム)

いばらきの会 小田倉さん、林さんファミリー、川井さん、和田さん、湯本さん、佐藤香苗さん、細谷さんファミリー

財団地区普及広報委員 福岡

6日の荒天から、一転、快晴の登録会で、日ざしが強くテーブルが熱くなってしまいました。。登録会のテント位置がシャトルバスの到着場所から遠く、入場者がここまで来てくれるのかなと心配でしたので、献血・ドナー登録の呼びかけやチラシ・ティッシュ配布に注力しました。そのためバルーン募金はいりませんでした。

やはり午前中は3名と少なく、どうなるかなと心配しました。

ところが午後からは、来訪者は少なくとも登録者が増え、多いときは同時に4名の方の登録をしました。

登録者が多かったのは、献血の手伝いに「茨城大学赤十字奉仕団」の方が10数人来られていました。その中の一人が推進員の得田さんと献血ルームでの顔見知りで、その方が登録されたので、他に4名の方に登録してもらえました。また、団長さんからは、茨城大学での献血会のときに、ドナー登録をやってはどうですか、その時は協力しますとのうれしい言葉をいただきました。今後に期待したいと思います。

登録者が多かったもう一つの理由は、近くの出展者の方が時間を割いて登録に来てくれたおかげです。

ドナー登録者30万人をめざして！

10月～1月 茨城県内イベント登録会等報告

お祭りで、しかも日曜日だったので説明員の子供さんが5人も参加する楽しい登録会でした。当日は、ひたちなか保健所の上松さんと日立献血ルーム推進員の得田さんと当会の林さん親子が大変積極的にPRして頂いたことも多くの登録者を得た要因ではないでしょうか？

(福間究)

10月29日 建設フェスタ2006 献血並行登録会

& ペンシルバルーン募金

ドナー登録者数 6名(受付6名、説明のみ2名)

献血者数 63名(受付80名)

登録会参加者

ひたちなか保健所 渡辺様

いばらきの会 貫井さん、望月さん、稲葉さん、福間さん、川井さん、

小田倉さん、湯本さん、和田さん、田崎さん、細谷みさ紀さん

財団地区普及広報委員 細谷

前夜からの雨で人出が心配されましたが、午前中に雨も止み午後からは晴れ間も見えるほどになりました。

それに伴い少しずつ人出も増え、大変賑やかなお祭りになりました。

ただ登録者数は昨年ほどではありません。

と言うのも献血に来た方の中には既に骨髄バンクに登録している方も多くいました。

主催の建設業協会の皆様の登録率が高く登録者数を伸ばすことが少し難しいとも感じます。

そんな中でも登録者数を確保すべく、オークションに出品しステージ上で“骨髄バンクからの出品の・・・。”と何度も連呼していただきましたが、あまり効果はなかったようです。残念！

それでも、“骨髄バンクでお馴染みの夏目雅子さん” “骨髄バンクのコマーシャルで話題の本田美奈子さん” “ジャイアンツの原監督も骨髄バンクに登録しています。”と言うコメントを壇上で言っていただいたことは、バンクのPRにはなったのではないのでしょうか？

(ちょっと無理やりの感もありますが・・・。)

なお、当日実施しましたバルーン募金は¥13,000でした。

(細谷栄一)

11月8日 富士通アクセス献血並行登録会

ドナー登録者 15名(受付16名)

献血者数 83名(200ml:27、400ml56、受付91名)

登録会参加者 筑西保健所 波川様 時野谷様

いばらきの会 細谷みさ紀さん

財団地区普及広報委員 細谷

県西地区での登録会は苦戦を強いられることも多いので今回も少々緊張していました。ところが、受付開始と同時に登録希望者がお越しになり、いつもとは少々違う雰囲気でした。それでも午前中は4名でしたが、午後には次第に増え始め11名の方にご登録戴きました。富士通アクセスの担当の方が事前に電子掲示板などで十分に告知をしていただいていたようで、直接ドナー登録に来てくれた方が数名いました。また血液センターの職員の方の「骨髄バンク登録はいかがですか？」との声掛けもかなりの効果があったようです。熱心に質問される方や、これで誰かが助かるならと仰る方も多く、富士通アクセスの社員の方のボランティア意識の高さを感じました。来年も是非お願いしたいと思います。

(細谷栄一)

ドナー登録者30万人をめざして！

10月～1月 茨城県内イベント登録会等報告

11月10日 かわねやフェスタ店献血並行登録会

ドナー登録者 5名(受付8名)
献血者数 72名(受付100名)
登録会参加者 常陸大宮保健所 山田様
登録推進員 野上さん(水戸献血ルーム)
財団地区普及広報委員 細谷

常陸太田ロータリークラブの方々のご協力の下、かわねやフェスタ店の駐車場で献血併行登録会を行いました。

朝から秋晴れの素晴らしいお天気に恵まれました。

昨年140人以上の献血者数を確保できたと言うことで、本年もバス2台による態勢でした。

ところが、午前中は献血者には恵まれませんでした。

ロータリークラブの方々のご自身で献血されたり、お知り合いに電話でお願いしたりされていましたが、例年のように献血者数を確保することは出来ませんでした。

バンクの登録のほうも、お越しになる方の年齢が高いことと、お店に買い物に来る方が割りと少なく、思うように声掛けが出来ずに登録数が伸びませんでした。

買い物客は5時以降に次第に増えだしました。残念！

受付8人に対して3人が不適格(血圧による)になったことも大変残念です。

常陸太田ロータリークラブの皆さんご協力ありがとうございました。

(細谷栄一)

11月12日 日立市産業祭献血並行登録会

ドナー登録者 14名(受付18名)
献血者数 48名(受付71名)
登録会参加者 日立保健所 菊池様 海老名様
登録推進員 得田様(日立献血ルーム)
いばらきの会 井手高子さん、磯貝
財団地区普及広報委員 牛島

前日の天気予報では木枯らし1号&寒い、でしたが幸い終日好天に恵まれ、会場は多くの来場者で賑わいました。模擬店のテントが立ち並びメインストリートを献血のプラカードやのぼり旗を掲げて終日献血の呼び掛けに声を漕らしました。

ドナー登録者数は午前中は4名と伸び悩みましたが、午後からは順調に伸びてますますの結果となりました。献血者数は、会場内で酒類の販売があったこともあり、呼び掛けに応じていただいた方も多かったのですが、残念ながら低調な結果となりました。

なお、献血主催のライオンズクラブメンバーの方々にチラシ配布を積極的にご協力いただきましたことに、心より御礼申し上げます。(牛島英二)

11月18日、19日 水戸市産業祭会場PR

自動車協会のご好意により11月18、19日に行われました水戸市産業祭で骨髄バンクのパンフレットの配布を行いました。(福間究)

ドナー登録者30万人をめざして！

10月～1月 茨城県内イベント登録会等報告

12月11日 陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地献血並行登録会

ドナー登録者 13名(受付14名 1名血圧不可)
献血者数 115名(受付126名)
登録会参加者 土浦保健所 江橋様
登録推進員 伊井さん(つくば献血ルーム)
いばらきの会 福間さん、鈴木さん
財団地区普及広報委員 小田倉

本日は、天候に恵まれ献血者も血圧などの関係で不可となる方も少なく多くの自衛隊関係者が訪れました。献血バスも2台のためスムーズに流れたのではないかと思います。職場柄、時間に制限のある方は昼休みの時間帯を利用する方が多かった為、断念される隊員の方も多かったようです。骨髄バンクの登録に関しても積極的に応じていただけ午前中5名の登録者となりました。午後からは自衛隊側の構内放送で骨髄バンクのドナー登録を呼びかけていただき8名の登録で合計13名の登録を得られました。また本日は登録会実施メンバーが少ない中、保健所の江橋さんが積極的に屋外でチラシ配布をして頂いたことも本日の好成績に寄与したと思います。多少残念だったのは若い隊員の方にはまだ興味が薄いようでありお話を聞いていただけませんでした。

骨髄バンクや献血に言えることですが若い方々のもっと興味を持っていただけるような普及広報を考えていかないといけないなと思いました。

なお、仕事の関係で半日しか滞在できずに参加された皆さんにはご迷惑をおかけしました。申し訳ありませんでした。

また、この登録会は、予定されていた場所での登録会が中止になった分の振り替え開催になります。登録会実施に当たり自衛隊との交渉をして頂いた土浦保健所の江橋様大変ありがとうございました。(小田倉孝夫)

12月25日 イトーヨーカドー古河店献血並行登録会

ドナー登録者 4名
献血者数 53名(受付76名)
登録会参加者 古河保健所 堀米様
いばらきの会 細谷さん
財団地区普及広報委員 小田倉

当初心配しておりました寒さもなく行うことができました。当日は地元の学生クリスマス献血であったのですが平日と年末という事もあり帰りを急ぐ方も多く登録者数も伸びませんでした。しかしながら、当日は骨髄バンクに関する質問や説明を希望する方が非常に多かったですので今後につながるのではないかと思います。(小田倉孝夫)

ドナー登録者30万人をめざして!

10月～1月 茨城県内イベント登録会等報告

1月5日 ジョイフル本田古河店献血並行登録会

ドナー登録者 4名（質問に来た方4名・資料を取りに来た方2名）

献血者数 55名（受付69名）

登録会参加者 古河保健所 堀米様
財団地区普及広報委員 細谷

平成19年最初の登録会の報告です。

ジョイフル本田古河店での登録会は昨年に続き2度目になります。

昨年は風が強くとっても寒い中での登録会でしたが、今年は天候には恵まれ過ごしやすい中での登録会となりました。

しかし、登録者数は4名とあまり伸びませんでした。骨髓バンクについて質問に来た方や資料を持っていった方が登録者数の割りに多かったのが救いです。（細谷栄一）

1月18日 龍ヶ崎保健所献血並行登録会

ドナー登録者 5名

献血者数 67名（受付81名）

登録会参加者 龍ヶ崎保健所 坂場様

登録推進員 伊井様（つくば献血ルーム）

いばらきの会 鈴木さん、貫井さん、望月さん、福間明子さん

財団地区普及広報委員 福間

ドナー登録は5名にとどまりました。そのうちの3名はライオンズクラブ関係の方でした。今回の献血はライオンズクラブの主催で、献血者の大部分はライオンズクラブ関係の方でした。一昨年に同様の献血併行登録会を行っていますので、ライオンズクラブ関係の方は登録済みの方が多いようです。チラシを配っていても、登録済みの方が4.5人いました。（福間究）

1月18日 長崎屋上水戸店献血並行登録会

ドナー登録者 7名

献血者数 102名（受付145名）

登録会参加者 水戸保健所 湯浅様（他1名 お名前がわかりません）

いばらきの会 林さん、川井さん、湯本さん

財団地区普及広報委員 山崎

献血人数のわりには、ドナー登録7名と思うような結果が出せず、ちょっと残念な登録会でした。参加された皆様大変お疲れ様でした。

1月18日 日立製作所大みか工場献血並行登録会

ドナー登録者 8名

献血者数 102名（受付123名）

登録会参加者 日立保健所 菊池様、海老名様

登録推進員 得田さん（日立献血ルーム）

いばらきの会 磯貝さん、井手さん

財団地区普及広報委員 牛島

ドナー登録者30万人をめざして！

10月～1月 茨城県内イベント登録会等報告

今年度2回目となる同事業所での登録会でしたが、残念ながら登録者数は前回は下回る結果となりました。要因として、献血者がリピーターの方が多く、潜在的登録希望者の方の実登録が進んでいるためと思われます。

ただ、ほとんどの献血者に対して県パンフレットを配布しましたので、今後日立献血ルームでの登録者増加に期待したいと考えております。(牛島英二)

本年も、こども病院訪問を行いました！！

12月10日、毎年恒例となりましたこども病院訪問を行いました。

今年は病院への入室に関しての病院側からのご要望などもあり健康診断書が必要になり一部の方には参加を見合わせる事になったり入室せずに廊下でサポートすることしかメンバーもいたりとした関係で、病室内での子供たちへのプレゼントや風船の配布に多少時間が掛かってしまいましたが、多くの子供たちに喜んで頂けた事と思います。次回もまた訪問させて頂ければと思います。今回は「つばさの会」役員で「神奈川骨髄移植を考える会」会員で「BMTハウスサポートの会」の川口真理子さんから、病院訪問に使ってくださいと、言うことで、いばらきの会宛「ぬいぐるみ」が提供して頂きました。ぬいぐるみはこあらのマーチ90個と小熊60個を寄付して頂きました。川口様、心温まるご寄付を頂きありがとうございました。

参加者は、田崎さん、和田さん、菱沼さん、湯本さん、川井さん、福間さん、小田倉でした。

(小田倉孝夫)

新会員紹介コーナー

新入会員の高畠です。

昨年は勝田自衛隊と県民まつり、専門学校での4回活動に参加させていただきました。

実は私が小学生の頃(初代会長時代ですね)にもパンフレットを配ったり、シンポジウムなどお手伝いをさせていただいた事がありました。その頃からずっと、いつかまたバンクの役に立ちたい・・・と願っていたので、参加できて嬉しかったです。活動は、私と年の近い和田さんが前々からメールをくれたり、他の方々も優しくして下さい、イメージ通りアットホームな雰囲気の中、あまり緊張や不安もせず行うことができました。ありがとうございました。平日は学校なのでそんなに活動には参加できませんが、少しでも登録者数が増える事、バンクを認知してもらえる事を願って、お役に立ちたいと思っています。これからもよろしく御願います。

～トピックス～

当会会員の細谷栄一さん、みさ紀さんご夫妻のお子さんの悠一郎君が去る5月27日に、青少年育成桜川市民会議真壁支部より

「母が骨髄バンクを支援する活動に参加しており一緒に活動に行う内自らもボランティア活動に参加し今でも続けている」

事に対し褒状が贈られました。

10月28日に行われました臨時定例会の席上で参加者に報告され、参加メンバーから万来の拍手を持って祝福しました。常日頃の活動がこのような形で認められたことは悠一郎君本人も大変喜んでいるのではないのでしょうか？これからも健やかにたくましく成長して行ってくれる事を会員一同願っております。悠一郎君、本当におめでとう！！

ドナー登録者30万人をめざして！

10月～12月 茨城県内イベント登録会等報告

12月20日 水戸看護学校講演会報告

昨日12/20に行われました看護学院での講演の報告をさせていただきます。

私たちは学校へ向かう車中の時点から既に去年と同じくカチンコチンでした。

けれども到着してから担当の先生が淹れてくださったあったか～いお茶を飲み、「一年たつって早いものですねえ」などと三人で和やかに歓談している間に多少落ち着きました。

会場の教室もまた昨年同様に学生さんたちがキチキチに押し込められていて熱気でムンムンでした。

皆さん一時間目に試験を終えたばかりでいらしたそうで、少々お疲れ気味(?)な様子でした。最初に骨髄移植とドナー提供についてのビデオを上映し、その後私たち二人の闘病生活についてお話ししました。私は主に「かけがえのない命」ということをお伝えしたつもりですが、やはり実際に84人もの前に立ちますとパニックります。ですが私自身も皆さんと同じ学生ですので、ええい、もう普通のゼミで発表するときのような気持ちで気楽にしゃべろう!と腹をくくったら、かえってペラペラとまくし立ててしまっただけで結局当初考えていた内容の2/3程度しか伝えられなかったです。それでも、質疑応答の時に手を挙げてくださった方の中で、「自分は死にたいと思ったことがあったけれども、お二人の話聞いて生きていることの素晴らしさを感じることができた」とおっしゃってくださる方がいて、私たちがお話ししたことを真剣に受け止めてもらえたのだと感じ、とても嬉しかったです。

講演の最後の方ではバンク活動のPRをしたのですが、そのときにドナー登録のことだけでなく、バルーン募金についてもお話しして、数名の学生さん一緒にひとつ犬をつくって見ましたら大盛り上がりで、明るく賑やかに終わることができました。

皆さん来年一月から実習が始まるということで、今回の私たちの講演が少しでもお役に立てたらいいな、と思います。昨年よりはいくぶんマシに話せたかな、と終了後に二人で反省会でしたが、自分たちにとっても大変良い経験になりました。

昨年に引き続きこのような機会を与えていただき、心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。(湯本倫子)

今年も昨年同様1クラスに2クラスの生徒がぎゅうぎゅう詰めに入って教室の中は全員で90名弱はいた様に思いました。

今年の学生さんは、昨年にくらべ男の方が少し多いように感じました。

昨年もやらせて頂いたのもあり、当日は緊張せず上手に話しを伝えられると思っていましたが、教壇に立ったとたん手足が震えてどうしようとパニックになったけど、話しを進めていくうちに少しずつ緊張もとれてきて落ち着いて話せたかなとゆう感じでした。

最初の30分間は、「生きるよろこび」というビデオを上映しました。その時の皆さんは、画面に食い入るようにすごく真剣に見ていました。

骨髄移植というものはどうゆうものなのか、どうやってやるのかを初めて見て移植というのは患者にとってもドナーにとってもすごく大変なものだけどそれゆえに移植の日を迎えた時の患者、家族の微笑ましい顔、感動の涙、これで「生」への道が開けたとゆう安心感が伝わったんじゃないかと皆さんの顔を見て感じとる事が出来ました。

今年は昨年よりバンクPRの時間を少し多めにとって湯本さんが詳しく登録要件を説明してくれて皆さんは事前に配っておいたチャンスを開いたりして興味深そうにきいてくれました。

あと今年は私たちの活動内容などのお話もして、募金活動などもしている事を話した延長で急遽ちょっとしたバルーン講習会もやることにしましたら静かだった教室が一気に賑やかになって、犬の作り方を説明しながらつくったんですが、もう大騒ぎで皆思い思いの作品を作って楽しんでくれました。

ドナー登録者30万人をめざして!

この楽しさを募金活動の戦力としていつか一緒に活動できたらいいなと思いました。
先生方にも大変良くしていただき、このような機会を下さった事、今年一年健康でいられた事に感謝をし来年もまた「生きるよろこび」を伝えていけたらいいなと思います。（和田かず美）

会員便り

やまがたの会の小野寺会長よりご案内を頂き、11月25日山形で開催されました「みぼりんの絵手紙展」と「マモのメッセージ展」また、当日併催されましたドナー登録会に行ってきました。

山形の会では毎月最終土曜日にドナー登録会が定期開催されているということでした。また、この定期開催分に関しては、地元の保健所が担当するのではなく、日赤さんが、ドナー登録の受付から業務に協力をしてくれるそうで会のメンバーの方は呼びかけと、登録の説明業務だけをするというシンプルな構成になっており各地域において登録会の実施方法も違うんだな感じました。

また見学させて頂いた「みぼりんの絵手紙展」とは、岡田美穂さん（享年13歳）という少女が小さいときに白血病に冒され姉からの骨髄移植により回復したものの、13歳の時に今度は脳腫瘍に冒され闘病中お父さんから勧められた絵手紙を入院当初から亡くなる直前まで書き溜めたものをご両親が展示会と言う形で全国を回るそうです。お父さんが「みぼりんと生前話した「絵手紙をみんなに見て貰えたらいいね・・・」の言葉を叶えるために開催しているそうで、お父さん曰く、「こうして活動しているといつもみぼりんと一緒にいるような気がしてほっと出来るんですね。一つ一つの絵を見るたびに、描いている情景が思い出され、哀しさよりも決して忘れられないことで安心します。絵手紙を見てくださる方々からたくさんのお言葉を頂いてますが、「生きる勇気をありがとう」とか「自分でも何かやらなくては・・・気がつかせてくれてありがとう」など生きる言葉として受け入れられてるようです。皆様のお言葉を本当に嬉しく思いますし、みぼりんの絵手紙が少しでも多くの人々の励みになってると思うとみぼりんが一番喜んでいそうな気がします。」と言う一言が印象的でした。

みなさんも機会がありましたら「みぼりんの絵手紙」（文芸社 発行）と言うお母さんが書かれた闘病記が書店に出ていますので是非読んでみてください。

また、もう一つの、「マモのメッセージ展」は皆さんご存知かと思いますが、白血病で亡くなられた、山形の会の小野寺会長の息子さんの小野寺守くんの闘病中に書き溜めたメッセージの展示です。私は初めて拝見しましたが、大変力強い言葉の中にも闘病中のつらさや、他人への優しさを思わせる言葉の数々でした。大変素晴らしい展示を見ることができました。（小田倉孝夫）

説明員有資格者各位へのご案内

登録会での登録希望者への説明は、解説グラビアと茨城オリジナルマニュアルにより実施しておりますが、下記の通り一部改訂いたしましたのでご理解の上、実施のほどお願いします。

1. 改訂理由

昨年3月にドナー登録者のHLA型検査方法がDNAタイピングに変更となり、それ以降登録された約5万人のみが繰り返し検索されるようになっている。その結果、ドナー登録後1ヶ月程度で適合通知が送付される可能性もあることから、登録会当日の説明時にドナー登録者に対してその事を説明し、家族への説明同意や本人への注意喚起を促すことにより、早期適合者の応諾率低下防止を図る。

ドナー登録者30万人をめざして！

2. 説明方法（添付ファイルの説明マニュアル3. 項参照）

解説グラビアによるプロセスの説明後、適合までの期間に関して「本日ご登録後、早い方では1ヶ月程度で適合する可能性も十分ございますので、ご登録されたことをできるだけお早めにご家族にお話ください。」と説明する。

3. 実施期日

12月より実施済み

4. 背景説明

献血併行型登録会で自分の意思だけで登録した人が、家族の同意を得る間も無く、また自身も実際に提供まで進む意志を固める間も無く、わずか1ヵ月後に通知が来た場合、当の本人は大いに当惑・動揺して結局断ってしまう可能性があります。

もちろん、そうしたケースで全ての人が断ってしまうわけではないでしょうが、登録後十分な時間が経過した人に比べて、応諾率が低くなる可能性があると考えられます。

また、適合通知に同封されている提供意思確認書の第一項目に提供意思の有無を質問され、「希望しない、事情があってできない」を選択した場合にその直ぐ後に畳み掛けるように「保留か取消しか？」との設問があり、登録後間もない人で家族への説明などを「面倒くさい」と感じると、「取消し」を選択する可能性もあります。（ちなみに第二質問は家族の同意について、話をしたのか？誰に同意を得たのか？とあり、まだ話をしていない場合、大いにプレッシャーを感じる可能性がある。）そのような場合、登録時に家族への早期説明・同意取得を促すことは上記のマイナス方向の選択を回避できる可能性がある。家族への説明は自身の提供意思決定への第一ステップでもあると思います。（牛島英二）



私に昨年2月、待望久しき初の適合通知が再登録後わずか5ヵ月後に届いたカラクリ（理由）について、前号でお話した。

そしてナントナント初回適合通知が届いてわずか7ヵ月後の昨年9月に2回目の通知がまたも届いた。

今回も通知を受領した翌日には直ぐに問診表を返送し、「よし、今度こそ！」と決意も新たに禁酒などの準備を始めようかと考えたのも束の間、わずか三日後にコーディネーター終了通知が届き、全くの拍子抜けとなる結果に終わってしまった。誠に残念至極である。

わずか一年の間に2回も適合通知が来たことは、骨髄バンクボランティアを人生のライフワークと位置づける私にとり、正に無上の喜びであり、天にも昇らんばかりの慶事ではある。

今年9月の再抹消までカウントダウン状態となったが、この調子で行けばあと1～2回は適合し、うまく行けば念願のドナーになれるチャンスはまだ十分残されている。だが、念願のドナーとなるには何だかハードルが高いな、と2回連続の落選で感じたものだ。

この辺りの事情については、全国協議会ニュース10月号にトップ記事として以下の解説が掲載

ドナー登録者30万人をめざして！

現在のコーディネートシステムでは、検査方法が変更になった一昨年3月以降に登録された約5万人のDNAデータのドナー登録者のみが繰り返し、繰り返し検索されているという現象が起きており、それ以前に登録された20万人の血清データのドナー登録者は置き去りにされている。

検索システムの優先順位として、まずDNAデータが一致している人が上位に上がることになっているため、その人達がいる限り、血清データがフルマッチで合っても、血清データのドナー登録者は検索にかからない状況となっている。

財団でもDNA型リタイピングを積極的に行い、DNAタイピングドナー数の割合を増加させることで、コーディネート期間の大幅な短縮が期待されることから、リタイピング実施の要望書を昨年8月に厚労省に提出した。

これに対して、厚労省は「平成19年度の予算要望はもう締め切ったので、次年度要求に間に合う形で再要望すること」との回答であった。

私はこれを読んで大きな憤りを感じ、夜も眠れない日々が続いた（というのは誇張に過ぎるが・・・）。

国（厚労省）が掲げたドナー登録30万人の目標早期達成に向けて、私たち全国のボランティアは正に血のにじむ努力をし、歯を食いしばってがんばっているのに、現在の登録者数26万人中の有効数はわずか5万人程度で、それを解消するためのリタイピング実施要望を財団が行ったことに対して「予算要望はもう締め切ったのでまた来年再要望せよ」と二歩もない冷たい回答。

20万人のリタイピング早期実施により、適合ドナーが見つかる患者さんが大幅かつ確実に増加することが見込めるにもかかわらず、それを放置・後回しにする国の所業は全く許せないことであり、助かるべきはずの患者さんの貴重な命が、国の無為無策で失われていく事態は、厳しく糾弾されなければならない。

財団も、患者さんの救命などそっちのけの些少な問題の対応に追われて全く前が見えていない状態であり、本来の患者救命に應えるべく、早く目を覚ませと言いたい。

患者負担金解消問題も大きなテーマではあるが、患者さんの救命率向上に直接大きく寄与する20万人のリタイピング実現に向けて、財団は全国のボランティア団体や患者団体と共に以前のようなパワーで国や国会に対する請願活動を早急を実施すべきである。

以上の事は患者さんの救命という骨髓バンクシステムの正に根幹に係る重大かつ緊急の問題であると考えます。（牛島英二）

ドナー登録者30万人をめざして！

骨髄バンクのボランティアを応援してください

骨髄バンクを支援するいばらきの会では、茨城県内で骨髄バンクの普及啓発をボランティアで行っています。活動資金は皆さまの善意の寄付によってまかなわれています。ボランティア活動への応援をお待ちしております。なお、ご面倒でもご寄付と会費の納入は郵便振替でお願いします。

郵便振替口座名義:00110-3-127575

加入者名義:骨髄バンクを支援するいばらきの会

事務局からのお知らせ。

匿名の方から、あさがおの種が事務局あてに送られて来ました。多分、ドナー登録の時にもらったあさがおの種を植えられ、収穫された種の一部を送ってくださったと思います。

有難うございます

心のごもったご寄付をありがとうございました。(2006.7.1~9.30)

お寄せいただいたご寄付のうち会費未納の会員からは会費(年2,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

つつみ幼稚園様 30,000円

ドナー登録は18歳から54歳までの健康な方ならどなたでも登録ができます。1人でも多くの皆様の御協力をお願いいたします。また、骨髄移植推進財団ホームページからも事前のお申し込みが可能となりました。ドナー登録についての詳しい説明もございますので是非ご覧ください。<http://www.jmdp.or.jp>

編集後記

本年もよろしく申し上げます。多くの患者さんの救命に寄与すべく皆さんと一緒に活動すると共に会報を通じて色々な方々に情報の提供に努めてまいりたいと思います。

(編集担当 小田倉孝夫)

日本骨髄バンク骨髄提供希望者(ドナー)登録者数:269,614人(県内5,315人)

骨髄移植希望者(患者数):3,350人(海外1,876 県内33人)

バンクを通じての移植例数:7,969例(海外144県内移植数151例、県内採取数144例)
(2007年12月末現在)

(財)骨髄移植推進財団 ホームページ <http://www.jmdp.or.jp>

ドナー登録についてのご質問・お問い合わせは

財団フリーダイヤル 0120-445-445 または ドナーズネット <http://donorsnet.net> まで

ドナー登録者30万人をめざして!